

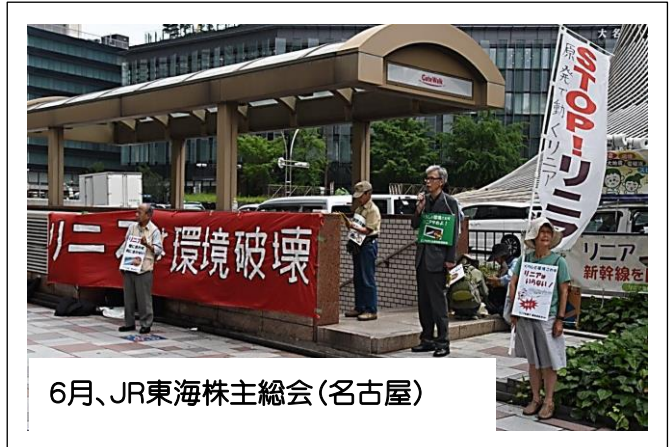
ストップ・リニア！訴訟第12回口頭弁論

被告（国）側はどのようにリニアの妥当性を立証するのか？、傍聴席を埋めて原告側の反論を応援しよう！

期日： 11月30日(金)

時間： 午後2時30分
(開廷時間)

集合： 午後1時15分
(東京地方裁判所)



第12回口頭弁論が11月30日(金)午後2時30分から東京地方裁判所103号法廷で開かれます。法廷では引き続き原告側の主張に対する被告(国)側の弁論が行われる予定です。原告側も、JR東海による岐阜県、愛知県での環境アセスなどの疑問について代理人が意見陳述をします。これまで同様に多くの皆さんの結集で傍聴席を埋めましょう。

報告集会で沿線各地のシンポ 法廷では拍手などはしないで静粛に！

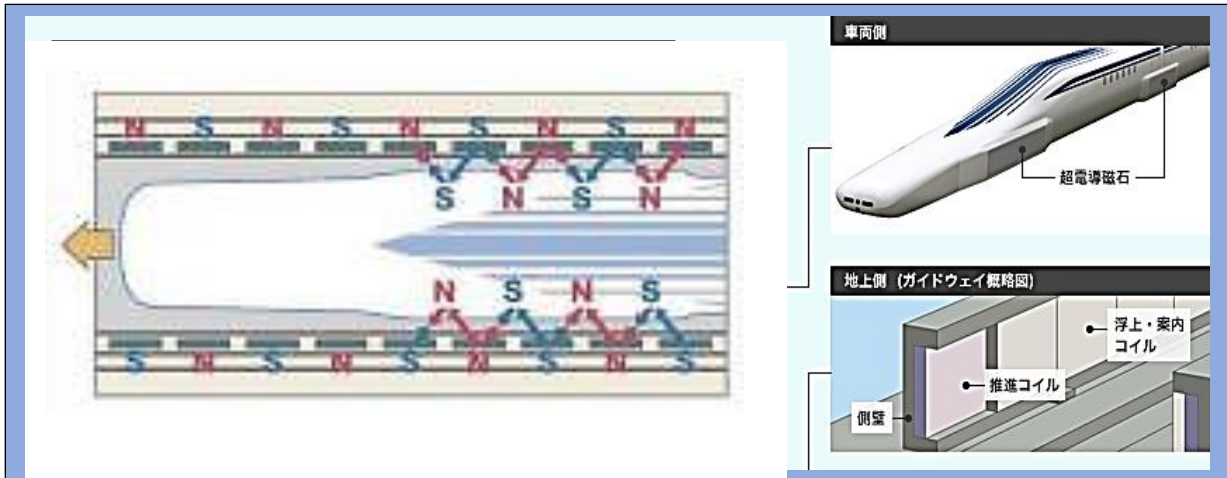
<11月30日の行動予定>

- 13:15 東京地裁前集合
地裁前集会
- 14:00 傍聴券抽選
- 14:30 開廷、15:20 閉廷
- 15:45 裁判報告
- 16:15 シンポ
『工学的見地から見た
リニア新幹線の問題』
衆議院第一議員会館多目的ホール
(14:30~1階ロビーで入館証配布)
- 17:45 終了予定



ストップ・リニア！訴訟原告団事務局：問合せ 080-6545-8784 橋本

工学的見地から見た リニア新幹線問題



11月30日(金)

午後4時15分～5時45分

場所:衆議院第一議員会館

多目的ホール(1階)

リニア新幹線は研究着手から50年以上を経過、ようやくJR東海が品川・名古屋間の建設に取り掛かった。

その前途は明るい未来なのか。否である。

286キロの86%がトンネルという工事。膨大な残土を運ぶための処分場さがし、残土を運ぶため膨大な量の工事車両が走りまわる。

重い車両を持ち上げて500キロのもうスピードで走行するため、とてつもない電力量を浪費する。また事故の危険を防ぐ手立ては万全なのか。今回は工学的見地から見たリニア新幹線の安全性や経済的合理性をしてみる。

講演

山梨県立大学前学長

伊藤 洋 さん



1940年 山梨県生まれ。東北大学大学院電気および通信工学科修了。1978年 山梨大学教授。2009年 山梨県立大学学長就任。『えんぴつで奥の細道』(ポプラ社)、『科学技術と人間』(山日新聞社)など著書多数。

主催: ストップ・リニア!訴訟原告団、リニア新幹線沿線住民ネットワーク